

都市消防委員会
説明資料 (2)

令和元年 12 月 10 日

住宅都市局

目次

名古屋駅周辺のまちづくりについて

	頁
1 リニア中央新幹線について（名古屋市関連）	1
(1) これまでの経緯	1
(2) 計画路線	1
2 リニア駅周辺の面的整備について	2
(1) リニア駅周辺のまちづくりの方向性（中間とりまとめ）の概要	2
ア 目的	2
イ リニア駅上部空間等の位置図	2
ウ 目標とするまちの姿	2
エ 将来のまちのイメージ	2
(2) まちづくりの取組（西地区）	3
ア 広場・道路の位置図	3
イ 取組の状況	3
(3) まちづくりの取組（東地区）	4
ア 広場・道路の位置図	4
イ 取組の状況	4
3 駅前広場周辺の再整備等について	5
(1) 検討の経緯	5
(2) 顔づくり	5
ア これまでの取組等	5
(ア) 目的	5
(イ) 取組概要	6
(ウ) 主な意見	6
イ 今後の進め方	6
(3) 東側エリア	7
ア 名古屋駅駅前広場の再整備プラン（中間とりまとめ）の概要	7
イ これまでの取組等	8
(ア) 都市計画手続	8
(イ) 都市計画手続の経過及び今後の予定	8

ウ	駅前広場の整備内容	9
	(ア) 整備内容と効果	9
	(イ) モニュメント「飛翔」の取扱い	11
エ	今後の進め方(案)	12
(4)	西側エリア	13
	ア 名古屋駅駅前広場の再整備プラン(中間とりまとめ)の概要	13
	イ これまでの取組	14
	(ア) 公表後の取組等	14
	(イ) 計画の検討	14
	(ウ) 民間事業者へのヒアリング	15
	(エ) 関係者との意見交換等	15
	(オ) 公表後の取組等のまとめ	16
ウ	再整備の基本的な考え方(案)	16
エ	リニア中央新幹線開業時の姿(案)	17
	(ア) 検討の方向性	17
	(イ) 検討イメージ	17
オ	西側エリアの目指す姿(案)	18
	(ア) 検討の方向性	18
	(イ) 検討イメージ	18
カ	今後の進め方(案)	19
(5)	事業規模等	20
	ア 名古屋駅周辺の開発	20
	イ 駅前広場周辺の再整備等	21
	(ア) 事業規模	21
	(イ) 財源確保	21
	a 費用負担の考え方	21
	b リニア関連名古屋駅周辺地区まちづくり基金の活用	21
	ウ 東側駅前広場の再整備	21
4	新たな路面公共交通システム(SRT)の考え方について	22
	(1) 概要	22
	(2) 乗降・待合空間の検討	22
5	名古屋駅とのアクセス性の向上(高速道路)	23
	(1) 高速道路出入口の追加・改良等によるアクセス性の向上の考え方	23
	(2) 取組の状況	23
	(3) 都市計画手続の経過及び今後の予定	24

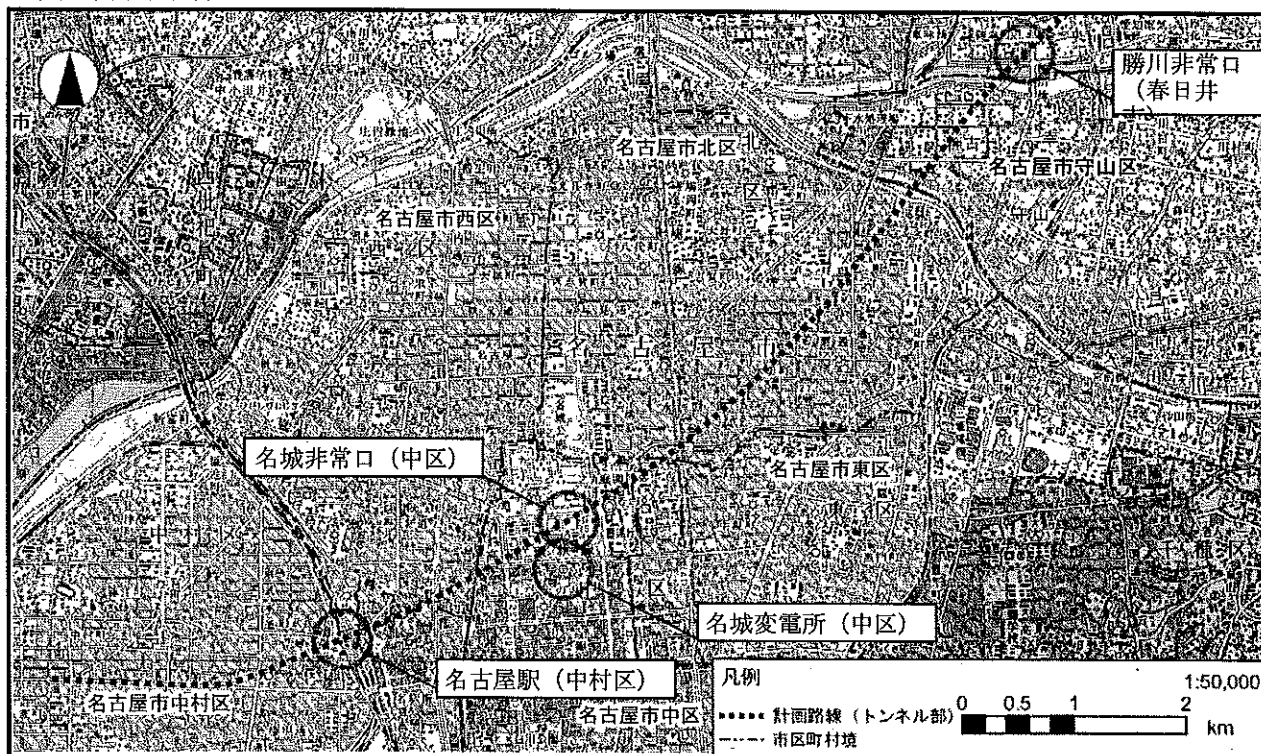
名古屋駅周辺のまちづくりについて

1 リニア中央新幹線について（名古屋市関連）

(1) これまでの経緯

時 期	内 容
平成26年10月	・工事实施計画の認可
12月	・名古屋駅準備工事の開始
平成27年1月	・名古屋市・公益財団法人名古屋まちづくり公社・東海旅客鉄道株式会社による用地協定の締結
6月	・用地説明会の開催
平成28年6月	・名城非常口工事の着工
12月	・名古屋駅（駅中央部）工事の着工
平成30年10月	・大深度地下使用の認可
12月	・名城変電所工事の着工

(2) 計画路線



備考 東海旅客鉄道株式会社の資料をもとに作成

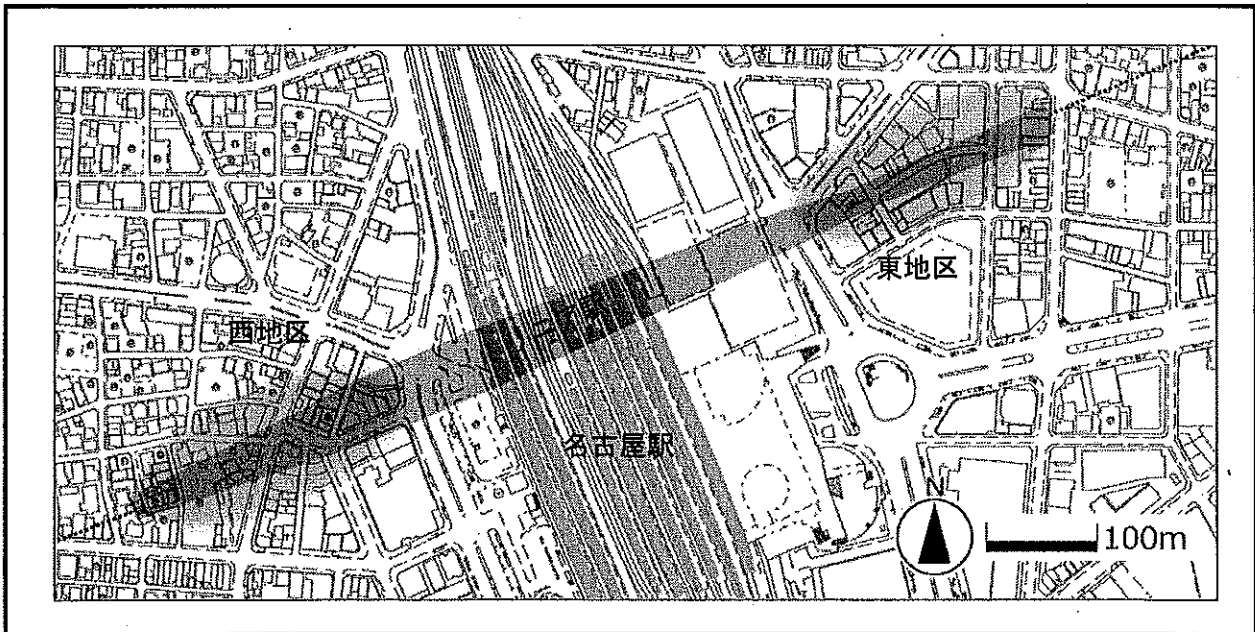
2 リニア駅周辺の面的整備について

(1) リニア駅周辺のまちづくりの方向性（中間とりまとめ）の概要

ア 目的

「リニア駅周辺のまちづくりの方向性」は、「名古屋駅周辺まちづくり構想」の主要プロジェクトのうち、リニア駅上部空間及び周辺街区のまちづくりを進めるため、目標とするまちの姿や取り組みについて、今後の方向性を示すもの

イ リニア駅上部空間等の位置図



ウ 目標とするまちの姿

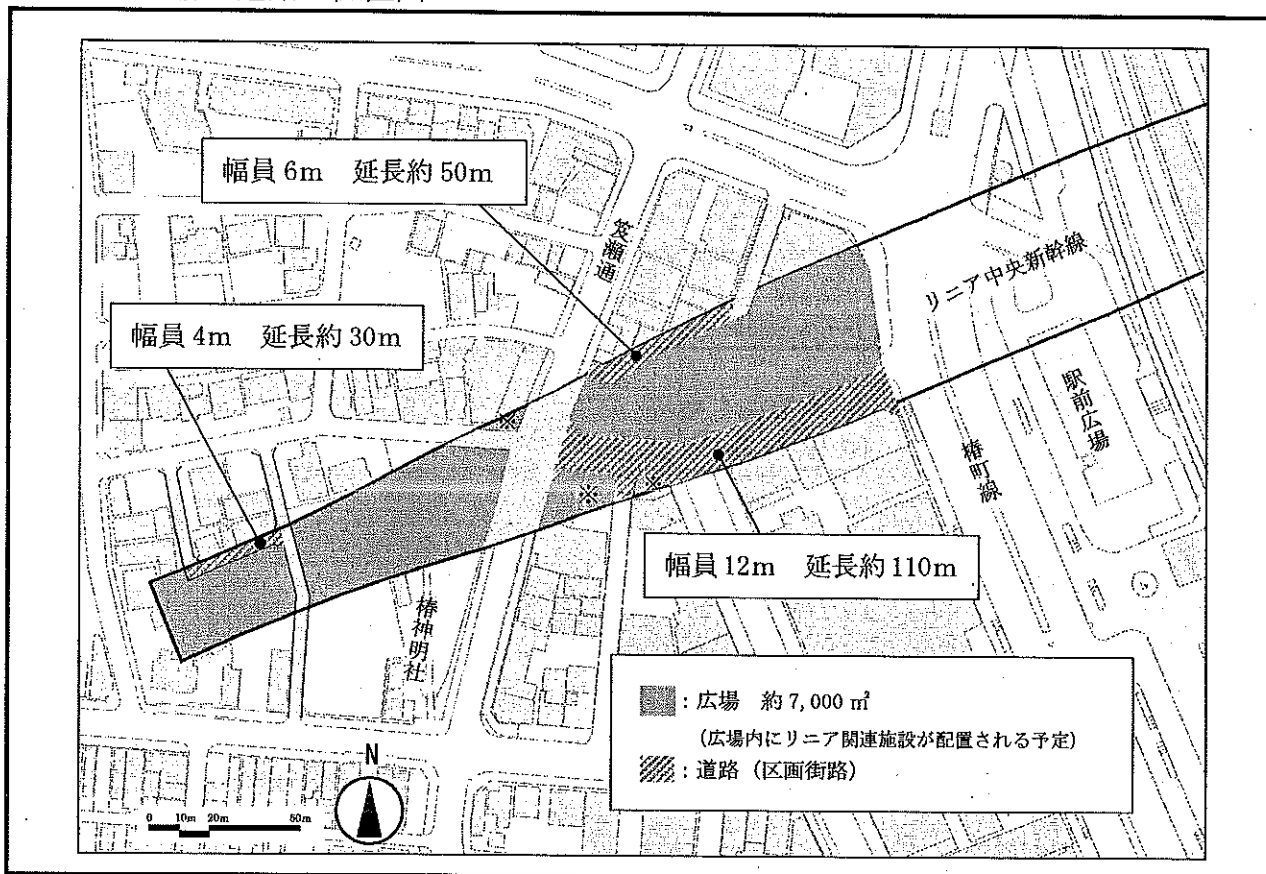
人々が集い、憩い、交流する広場が中心にあるまち

エ 将来のまちのイメージ

- ・交流空間やプロムナード空間となる広場を中心に、広域から人々が集い・にぎわうまち
- ・名古屋の“顔”となり、多彩で魅力的な“顔”をもつまち
- ・交流拠点・魅力拠点・ビジネス拠点にふさわしい安心・安全なまち
- ・まちへの玄関口となる開放性の高い駅とまちをつなぐ駅前広場
- ・地域資源を活かした回遊性の高い・歩いて楽しいまち

(2) まちづくりの取組 (西地区)

ア 広場・道路の位置図



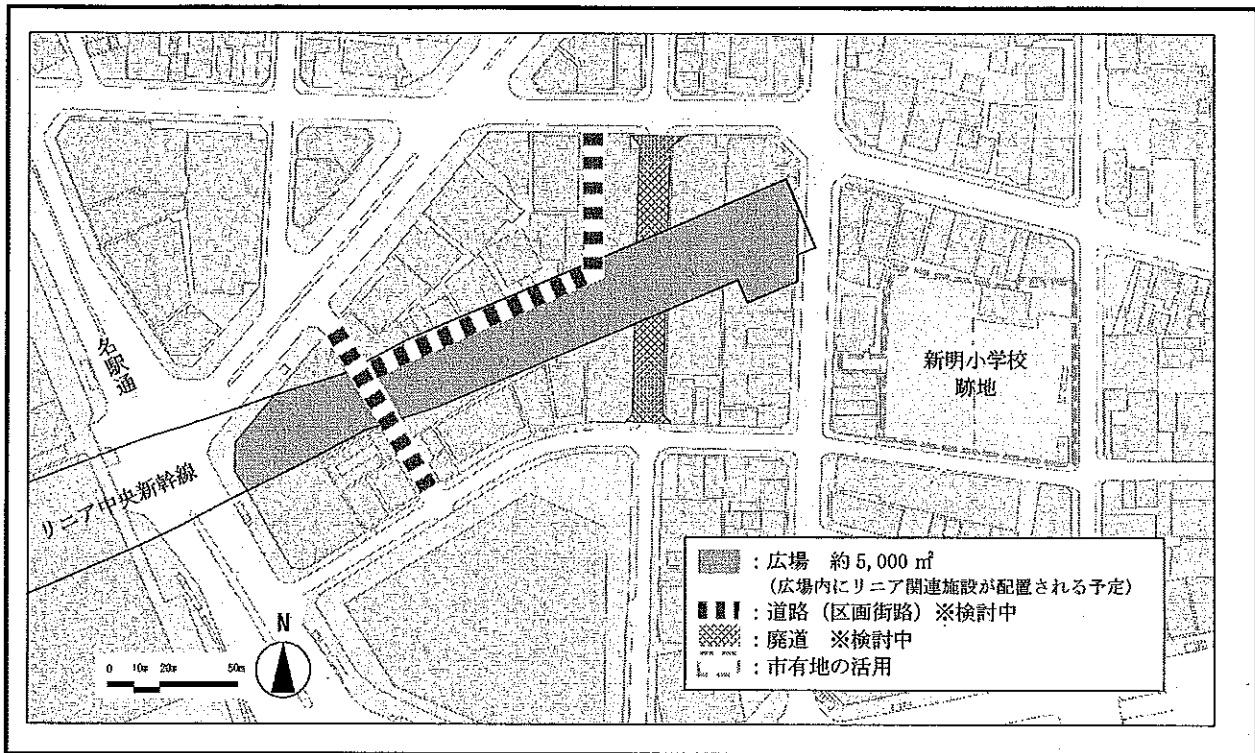
- (注) 1 リニア関連施設は、できる限り広場空間と調和するように配慮
 2 ※印箇所にリニア関連施設が配置される場合は、広場とならない可能性あり

イ 取組の状況

事項	内容
広場・道路(区画道路)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の位置・幅員について「リニア駅周辺のまちづくりの方向性」にて公表 ・広場・道路の計画について関係機関と協議中
周辺まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺まちづくりについて、地域と行政が協働して取り組むため、名古屋駅西地区まちづくり推進会議を設置・開催 ・会議において、まちの将来像やルールづくり等について検討中

(3) まちづくりの取組（東地区）

ア 広場・道路の位置図



(注) リニア関連施設は、できる限り広場空間と調和するように配慮

イ 取組の状況

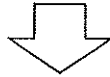
事 項	内 容
広場・道路(区画道路)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の位置・幅員や、敷地整序のための基盤整備手法について、関係機関と協議中 ・上部空間広場と地下鉄駅との接続について関係機関と協議中
周辺まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア事業に伴う代替地として、新明小学校跡地（西側敷地）の売却手続中 ・広場を中心としたまちづくりについて検討中

3 駅前広場周辺の再整備等について

(1) 検討の経緯

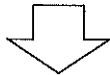
名古屋駅周辺まちづくり構想（平成26年9月策定）

リニア中央新幹線開業後のまちを見据え、多様な主体がまちづくりを進めるための共通目標となる基本方針と具体的な取組を示している。



名古屋駅周辺交通基盤整備方針（平成30年3月策定）

まちづくり構想に掲げる主要プロジェクトのうち、交通基盤関連プロジェクトを中心に各交通施設について、今後の整備内容を具体化するための方向性を示している。



名古屋駅駅前広場の再整備プラン（中間とりまとめ）（平成31年1月策定）

駅前広場の再整備について、「世界の目的地となる名古屋の新しい顔づくり」と「スーパーターミナル駅にふさわしい高い機能性の発揮」を基本コンセプトとして示している。

(2) 顔づくり

ア これまでの取組等

(ア) 目的

駅前広場において、交通機能の確保に合わせ、駅から出て最初に目にする広場で「This is NAGOYA」を感じる象徴的な空間形成を図る。

(イ) 取組概要

時 期	事 項
平成31年 1月28日	・「名古屋駅駅前広場の再整備プラン（中間とりまとめ）」公表 ・シンポジウム「名古屋駅駅前広場の再整備“始動”」の開催（参加者数 約300名）
令和 元年 5月27日	・トークイベント「名古屋駅駅前広場の再整備“名古屋の顔づくり”」の開催（参加者数 約250名）
5月13日 ～6月28日	・“名古屋の顔づくり”アイデア募集・アンケートの実施
6月23日 7月 7日	・こどもワークショップ「わくわく未来の名古屋駅前の広場」の開催（参加者数 15名）
7月28日	・「名古屋駅駅前広場の再整備“名古屋の顔づくり”」アイデア発表会の開催（参加者数 約200名）
11月 6日	・「第7回名古屋駅周辺エリアにおけるトータルデザイン検討会議」の開催

(ウ) 主な意見

- ・ 歴史・文化・地域の特性等、まちのアイデンティティを活かす。
- ・ 地域の祭りや過去から最新のものづくり文化を発信する。
- ・ 来訪者と地域の人が出会い・交流でき、アクティビティや憩いの場となる空間とする。
- ・ 最先端技術を活用して、感動を提供し、楽しい空間とする。
- ・ 日常も名古屋らしさを感じる。
- ・ フォトジェニックな写真の撮影スポットをつくる。
- ・ 日常の機能をベースに、仮設等により1年を通じた変化や非日常を演出する。

イ 今後の進め方

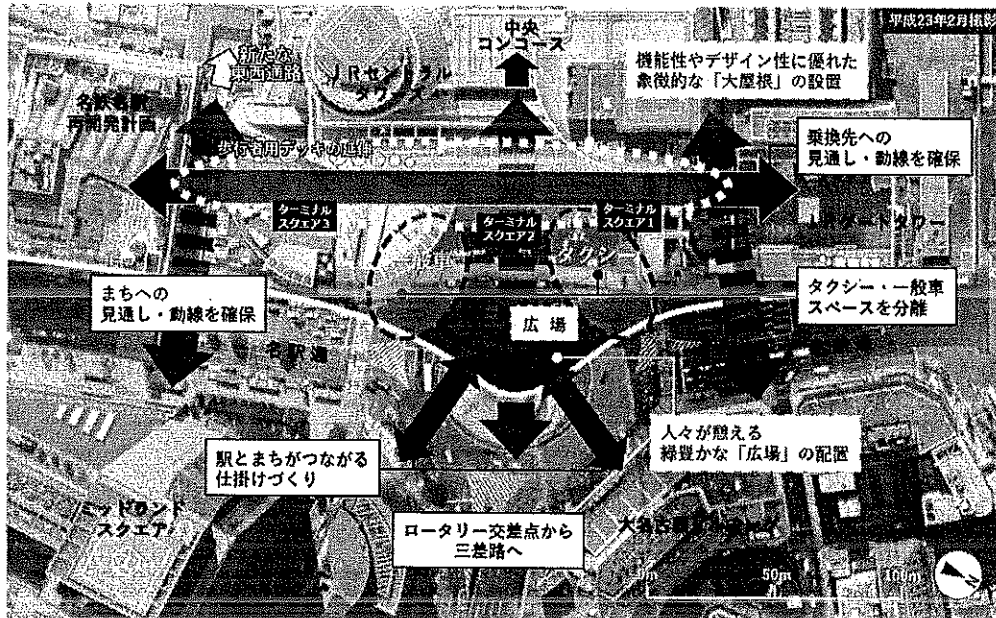
- ・ 市民の皆様や有識者から頂いた意見を踏まえ、広場で行われる様々な活動を中心に検討イメージ図としてとりまとめ、令和2年春頃に公表する。
- ・ 公表後、引き続き有識者等から意見を頂きながら、顔づくりのコンセプト等を検討し、東・西側の広場の整備に反映する。

(3) 東側エリア

ア 名古屋駅駅前広場の再整備プラン（中間とりまとめ）の概要

再整備の方向性として、ロータリー交差点の改良等を行い、飛翔の位置まで広場を広げ、まちにつながる歩行者空間、乗換空間等の整備を図ることについて示した。

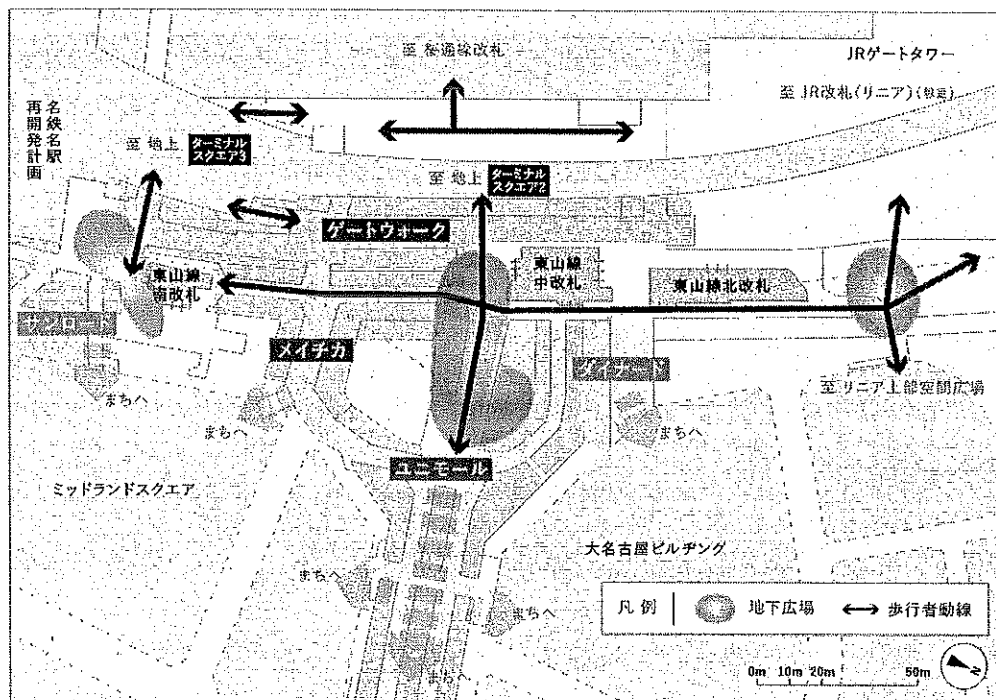
(再整備イメージ)



※ 交通施設、昇降施設、屋根等の施設の規模や配置等については、今後引き続き関係者等と協議、調整を進めていきます。

※ 駅前広場内に、交番、案内所、店舗等を配置することを検討しています。

(地下整備イメージ)



イ これまでの取組等

(ア) 都市計画手続

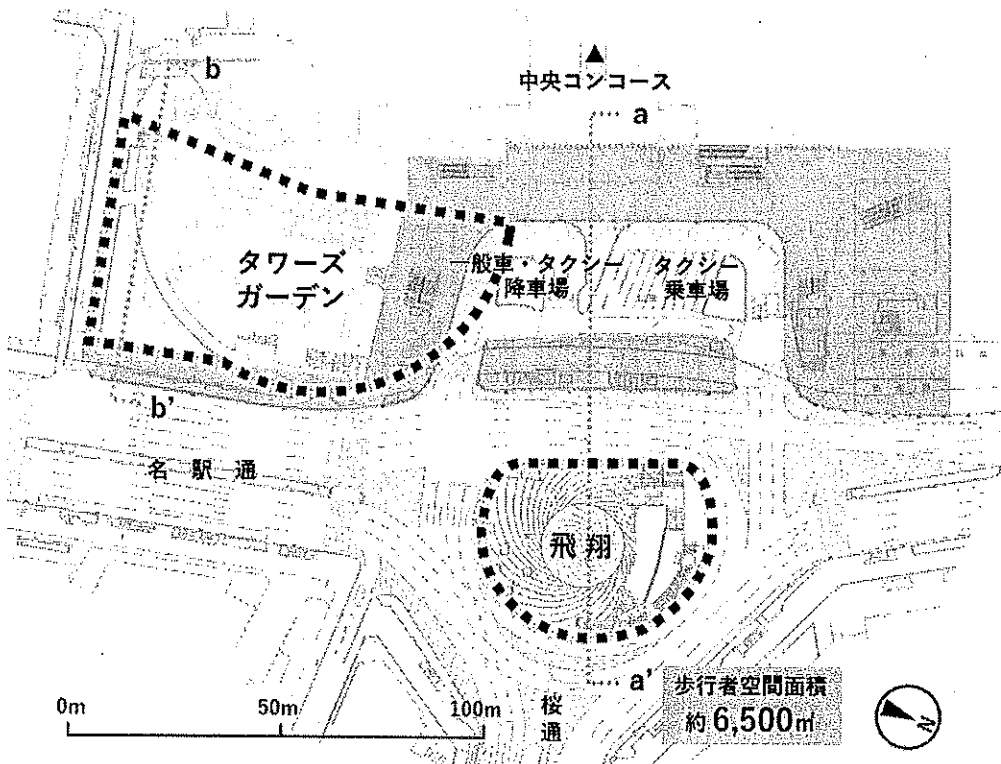
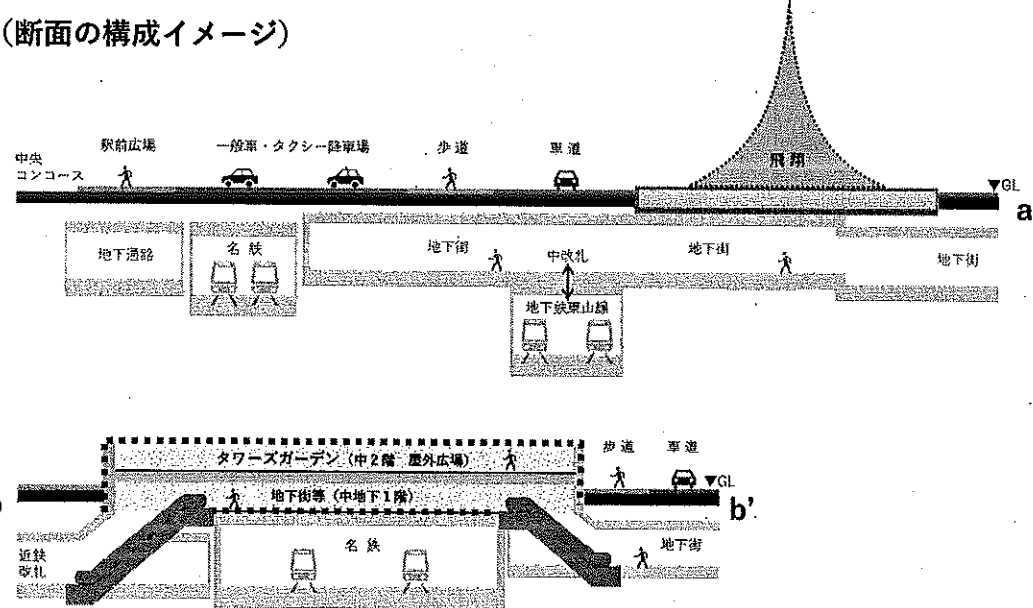
地上部の駅前広場を拡充し、交差点形状を変更する内容の都市計画変更手続に着手

(イ) 都市計画手続の経過及び今後の予定

経過	地元説明会	令和元年8月5日～9日 4会場で延べ4回開催	
		参加者	合計 約250名
		主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・一般車の駅へのアクセス性について ・歩行者のまちへのつながりについて ・ユニバーサルデザインの対応について ・工事中の影響について
	都市計画案の縦覧	令和元年12月11日～25日	
今後の予定	名古屋市都市計画審議会	令和2年2月頃	
	都市計画の告示	令和2年3月頃	

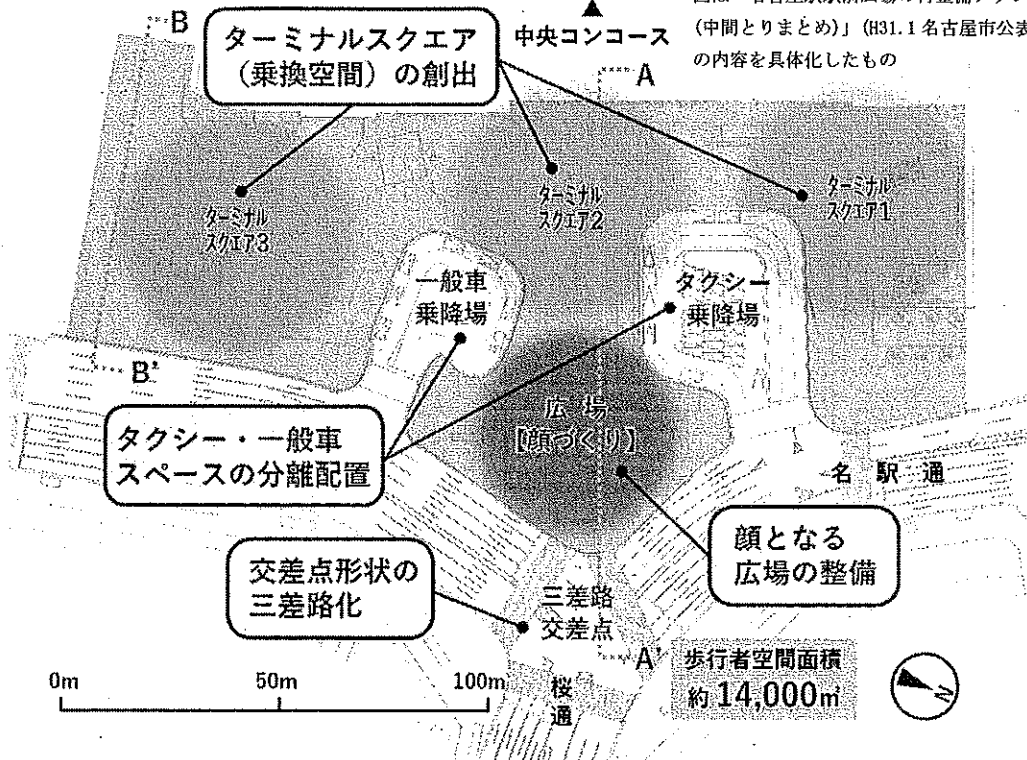
ウ 駅前広場の整備内容

(ア) 整備内容と効果

<p>整備前</p>	<p>[整備前]</p>  <p>中央コンコース</p> <p>タワーズガーデン</p> <p>一般車・タクシー降車場</p> <p>タクシー乗車場</p> <p>飛翔</p> <p>名駅通</p> <p>0m 50m 100m</p> <p>歩行者空間面積 約6,500m²</p> <p>(断面の構成イメージ)</p>  <p>駅前広場</p> <p>一般車・タクシー降車場</p> <p>歩道</p> <p>車道</p> <p>飛翔</p> <p>中央コンコース</p> <p>地下通路</p> <p>名鉄</p> <p>地下街</p> <p>中改札</p> <p>地下鉄東山線</p> <p>地下街</p> <p>地下街</p> <p>地下街</p> <p>地下街</p> <p>タワーズガーデン (中2階 屋外広場)</p> <p>歩道</p> <p>車道</p> <p>地下街等 (中地下1階)</p> <p>近鉄改札</p> <p>名鉄</p> <p>地下街</p>
<p>整備内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルスクエア (乗換空間) の創出 ・顔となる広場の整備 ・地下広場等の整備 ・交差点形状の三差路化 ・タクシー・一般車スペースの分離配置

【リニア中央新幹線開業時に目指す姿】

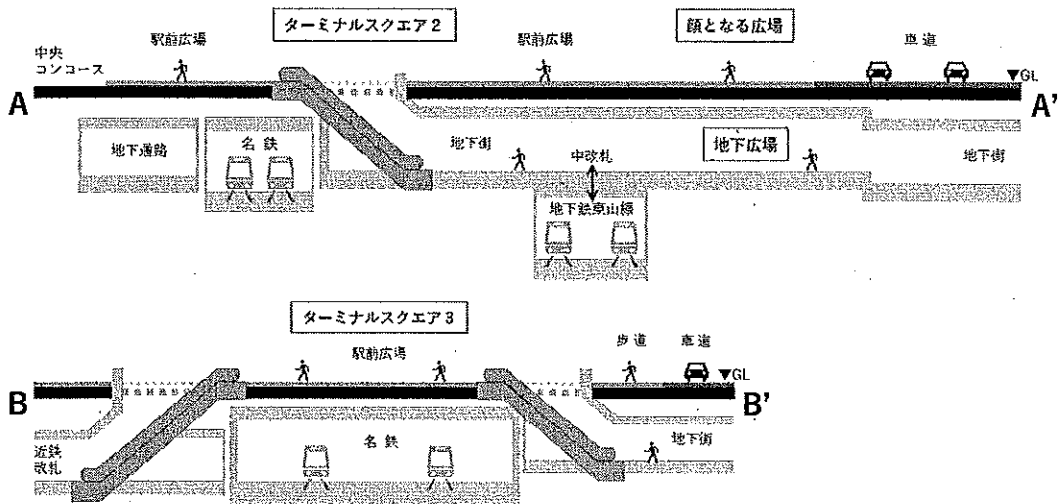
図は「名古屋駅駅前広場の再整備プラン
(中間とりまとめ)」(H31.1名古屋市長表)
の内容を具体化したもの



整備後

- ※ 道路の詳細構造、施設の配置や規模等については、関係者との調整により今後変更することがある。
- ※ 「新たな路面公共交通システム(SRT)」と整合を図る。
- ※ ターミナルスクエア3については名鉄名駅再開発計画との整合等が必要。

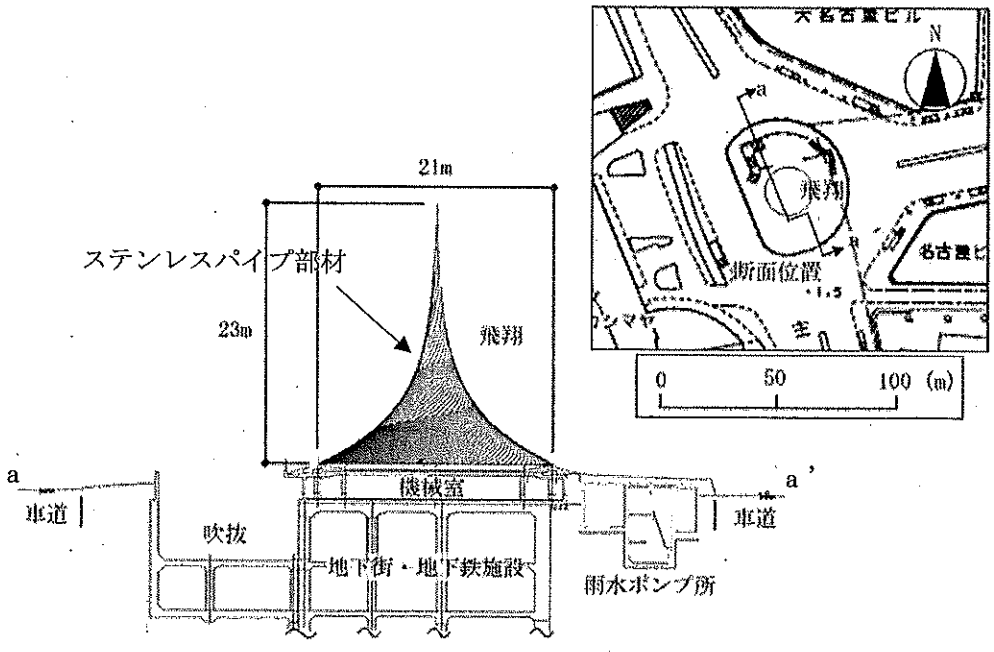
(断面の構成イメージ)



整備効果

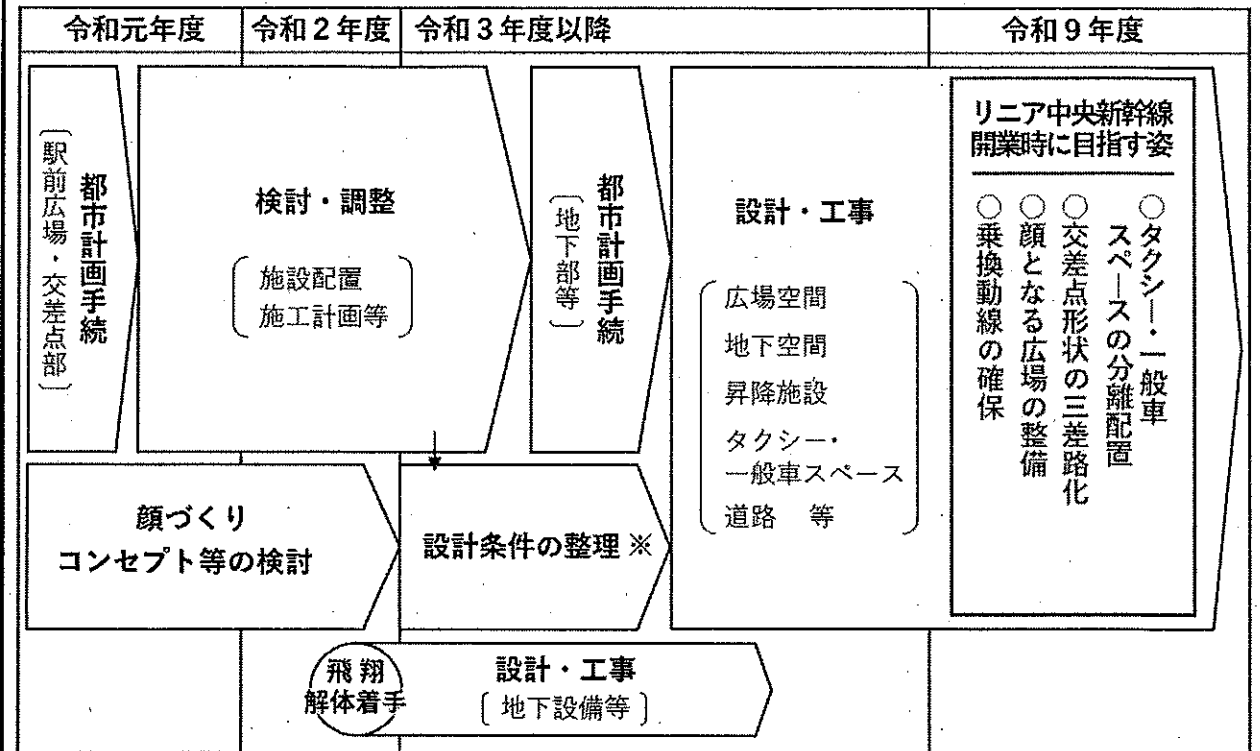
- ・ 乗換先への見通し・動線が確保され、わかりやすくなる。
- ・ まちへの見通し・動線が確保され、まちとのつながりが強化される。
- ・ 人のための広場空間が広がり、多様な活用ができる。
- ・ 交差点がわかりやすく、円滑に交通処理でき、安全性が向上する。
- ・ タクシーと一般車が分離されることにより、安全に利用できる。

(イ) モニュメント「飛翔」の取扱い

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「飛翔」は、市制100周年事業の一環として整備され、以来30年に渡り駅前のシンボルとなってきたステンレスパイプをらせん状に組んだモニュメントである。 
<p>これまで検討した結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現地にて、ステンレス製の曲線状パイプを立体的に溶接し組み上げた特殊な構造であるため、それを切断して、現在の部材を利用した全体の再構築は非常に困難である。
<p>取扱い方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> 駅前広場の再整備に合わせ「飛翔」は解体する。 部材の部分的な利用等を検討しつつ、再構築を行う。 再構築を行う場所については、今後検討する。
<p>今後の進め方</p>	<ol style="list-style-type: none"> 「飛翔」の再構築 <ul style="list-style-type: none"> 再構築場所の景観整備と合わせた再構築のあり方検討 再構築にあたり、構造や各部材の安全性検証 当時の設計者や再構築場所の関係者との合意形成 (移設先候補としては、ささしまライブ、国際会議場等) スケジュール <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に解体工事の着手予定 令和3年度から部材検証等を経て再構築予定

エ 今後の進め方 (案)

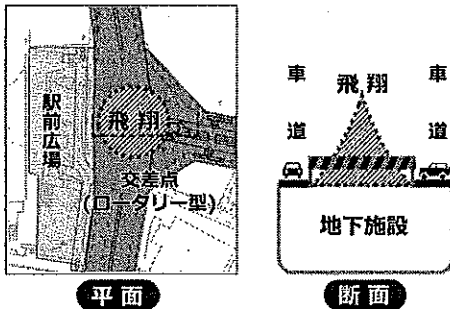
(整備に向けた進め方)



※設計に反映するため、顔づくりのコンセプト等に合わせ、施設配置や荷重条件等を整理

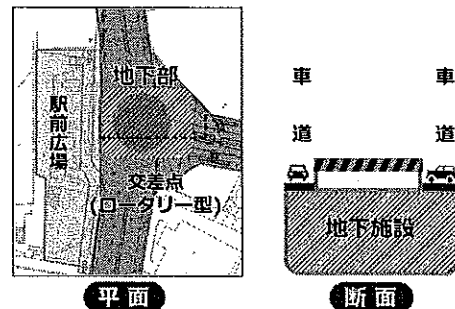
(交差点部の施工手順イメージ)

STEP① 飛翔の解体等



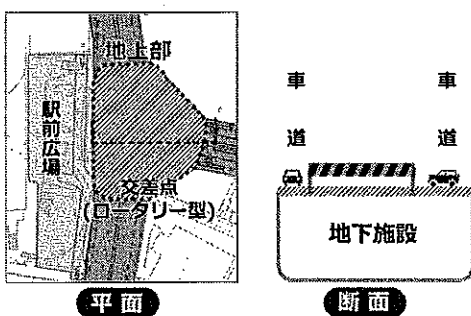
飛翔の解体及び関連施設の撤去

STEP② 地下施設工事



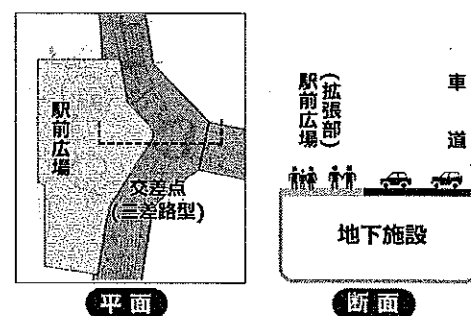
ポンプ所等の地下設備や地下広場等の地下空間の整備

STEP③ 道路工事



道路線形の変更

交差点形状の三差路化



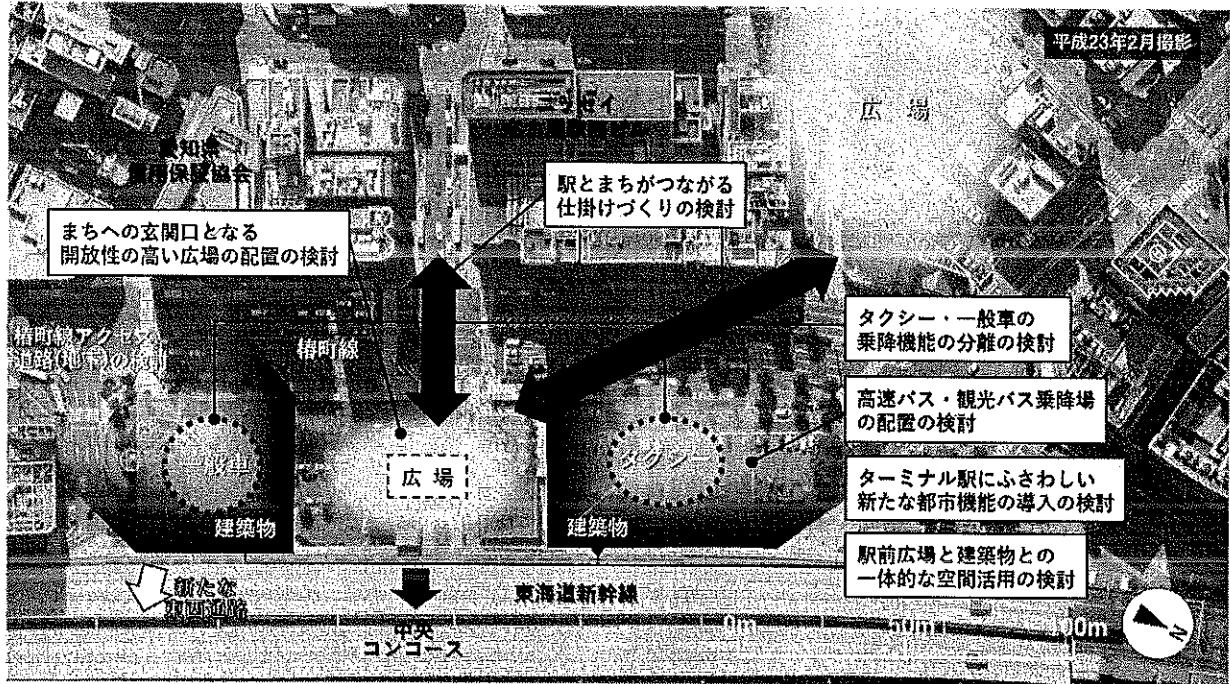
三差路交差点の供用開始

(4) 西側エリア

ア 名古屋駅駅前広場の再整備プラン（中間とりまとめ）の概要

検討の方向性として、駅とまちとをつなぐ開放性の高い広場を駅前広場の中央に配置すること並びにバス乗降場等の交通施設の配置及び新たな都市機能の導入に向けた駅前広場の多様な空間活用について検討することを示した。

(検討イメージ)



- ※ 駅前広場と建築物との一体的な空間活用を仮定した場合のイメージです。
- ※ 交通施設等の施設の規模や配置等については、今後引き続き関係者等と協議、調整を進めていきます。
- ※ 駅前広場内に、昇降施設、自転車駐車場等を配置することを検討しています。

イ これまでの取組
 (ア) 公表後の取組等

計画の検討	・検討の方向性等について、それぞれ具体的な対応方策等を検討
民間事業者へのヒアリング	・駅前広場と建築物との一体的な空間活用等について、民間開発事業者等にヒアリングを実施
関係者との意見交換等	・有識者、地下街事業者、地元まちづくり団体等と意見交換等を実施

(イ) 計画の検討

検討の方向性	検討内容	現時点の状況
開放性の高い広場の配置の検討 駅とまちがつながる仕掛けづくりの検討	・交通施設の効率的な配置による広場確保を検討 ・歩行者と車との交錯を軽減した交差点形状への変更を検討 ・隣接エリアやリニア駅上部空間との歩行者動線を検討	・歩行者のたまり空間を備えた開放性の高い広場空間を確保 ・歩行者と車との交錯がない駅とまちとの主動線を確保 ・駅前広場と西側のまちとの回遊動線を確保
タクシー・一般車スペースの分離の検討	・タクシー・一般車スペースについて効率的な分離配置を比較検討 ・名古屋タクシー協会と意見交換を実施	・駅前広場北側にタクシースペース、南側に一般車スペースを分離配置することで調整
高速バス・観光バス乗降場の配置の検討	・待合環境にも優れた利用しやすいバス乗降場について、駅前広場の地下空間の活用も含めた配置を比較検討	・隣接エリアを含めてバス乗降場を検討した方が、効率的に施設を配置できることを確認
新たな都市機能の導入の検討 駅前広場と建築物との一体的な空間活用の検討	・新たな都市機能の導入や必要な交通機能の確保を前提とした駅前広場と建築物について、施工手順等を比較検討	・駅前広場の地下を含む再整備の場合、交通機能を確保しながらの長期間の大規模な工事になることを確認
世界の目的地となる名古屋の顔づくりの検討	・名古屋らしさを感じられる「顔づくり」について、有識者の講演や意見交換、アイデア募集等を実施	・頂いた様々な意見やアイデア等をとりまとめ
<p>計画の検討のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開放性の高い広場の確保とタクシー・一般車の分離配置については、概ね実現が可能 ・待合環境にも優れた利用しやすいバス乗降場の配置については、隣接エリアを含めて配置した方が、効率的に施設を配置できることを確認 ・地下を含む再整備となった場合、長期間の大規模な工事になる。 		

(ウ) 民間事業者へのヒアリング

項目	結果
再開発の参画意向	<ul style="list-style-type: none"> 東海道新幹線及びリニア中央新幹線の玄関口にある唯一無二の場所であるため、条件が整えば駅前広場における再開発に関わりたい。
事業スキーム	<ul style="list-style-type: none"> 公共と民間の一体的な再整備となるため、民間事業者が参画しやすいスキームとする必要がある。
工事期間	<ul style="list-style-type: none"> 地下を含む再整備となった場合は長期間の工事となり、リニア中央新幹線開業までに間に合わないと思われる。
西側のまちづくり等	<ul style="list-style-type: none"> 将来の西側のまちづくりの方向性を明確にしつつ、それを踏まえた駅前広場の再整備とする必要がある。 駅前広場の再整備を魅力あるものにすることが、隣接エリアの再開発の促進につながるとともに、西側のまちづくりをけん引していくことになる。

(エ) 関係者との意見交換等

項目	主な意見	関係者
工事期間等	<ul style="list-style-type: none"> 工事期間中の交通機能の確保や、まちへの影響が心配である。 駅東西の長期間に渡る大規模な工事により、駅周辺の交通混雑が懸念される。 歩行者の安全に配慮しつつ、交通の安全と円滑化を図るべき。 アジア競技大会やリニア中央新幹線開業を迎えるにあたり、必要な交通機能を確保するべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元まちづくり団体 地下街事業者 交通管理者 道路管理者
西側のまちづくり等	<ul style="list-style-type: none"> 西側のまちまで広げた検討を行うべき。 駅前広場としての広場空間を最大限確保するべき。 関係者と十分な調整を行い、西側のまち全体の発展につながる再整備にするべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 有識者 地元まちづくり団体 地下街事業者

(オ) 公表後の取組等のまとめ

項目	内容
検討エリア	<ul style="list-style-type: none">・ タクシー・一般車スペースの分離や開放性の高い広場の配置等は一定程度の確保が可能だが、待合環境にも優れた利用しやすいバス乗降場の配置については、エリアを広げて検討を行う必要がある。
リニア中央新幹線開業時の姿	<ul style="list-style-type: none">・ アジア競技大会やリニア中央新幹線開業を迎えるため、必要な交通機能を確保すべき。
西側エリアの目指す姿	<ul style="list-style-type: none">・ リニア中央新幹線の玄関口となる駅西側に対する期待が大きく、関係者と十分な調整を行い、西側のまちづくりをけん引する魅力ある再整備を求める意見が多い。・ 駅前広場の再整備に対して、民間事業者の参画意欲が示されているが、民間事業者が参画しやすい事業スキームとする必要がある。

ウ 再整備の基本的な考え方（案）

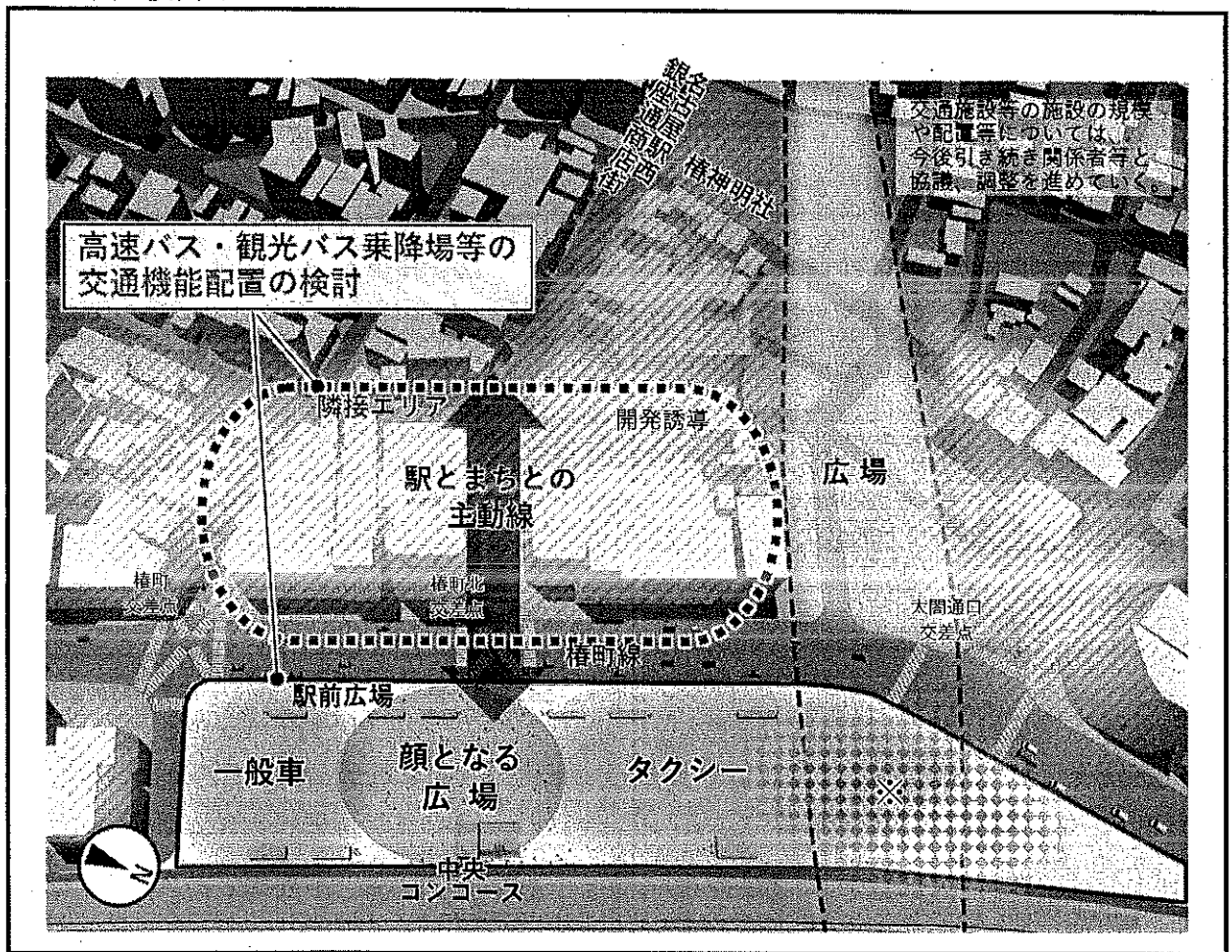
<ul style="list-style-type: none">・ リニア中央新幹線開業時を目指して、早期にリニア効果が発現できるように、必要な交通結節機能の確保と空間形成を行う。 そのために、当面、駅前広場は平面レベルの限られた空間の中で機能確保を行う。・ リニア中央新幹線開業後のできる限り早期に、スーパー・メガリージョンの中心にふさわしい重層的な拠点の形成を目指して再整備を行う。 そのために、関係者との調整を十分に進めるとともに民間事業者との連携を深め、施設配置や動線等について多様な視点による検討を行う。・ 交通結節機能について、隣接エリアの活用も含めた検討を行う。
--

エ リニア中央新幹線開業時の姿（案）

(ア) 検討の方向性

リニア中央新幹線開業を迎えるにあたり必要な交通機能の確保と空間形成	
交通機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の安全性を高めた高速バス・観光バス乗降場を、隣接エリアの活用も含めて効率的な配置を検討する。 ・ タクシー・一般車スペースの分離配置を検討する。
空間形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅前広場の中央部分に広場を配置し、駅とまちとの主動線の確保を検討する。 ・ リニア中央新幹線開業を迎える「顔づくり」を検討する。

(イ) 検討イメージ



備考1 既存の地下街及び地下駐車場は、現状の利用を基本とする。

備考2 「新たな路面公共交通システム（SRT）」と整合を図る。

(注) リニア中央新幹線名古屋駅新設工事に伴う復旧工事等の状況により、リニア中央新幹線開業時には、※付近に駅前広場機能の確保が困難となることが想定される。

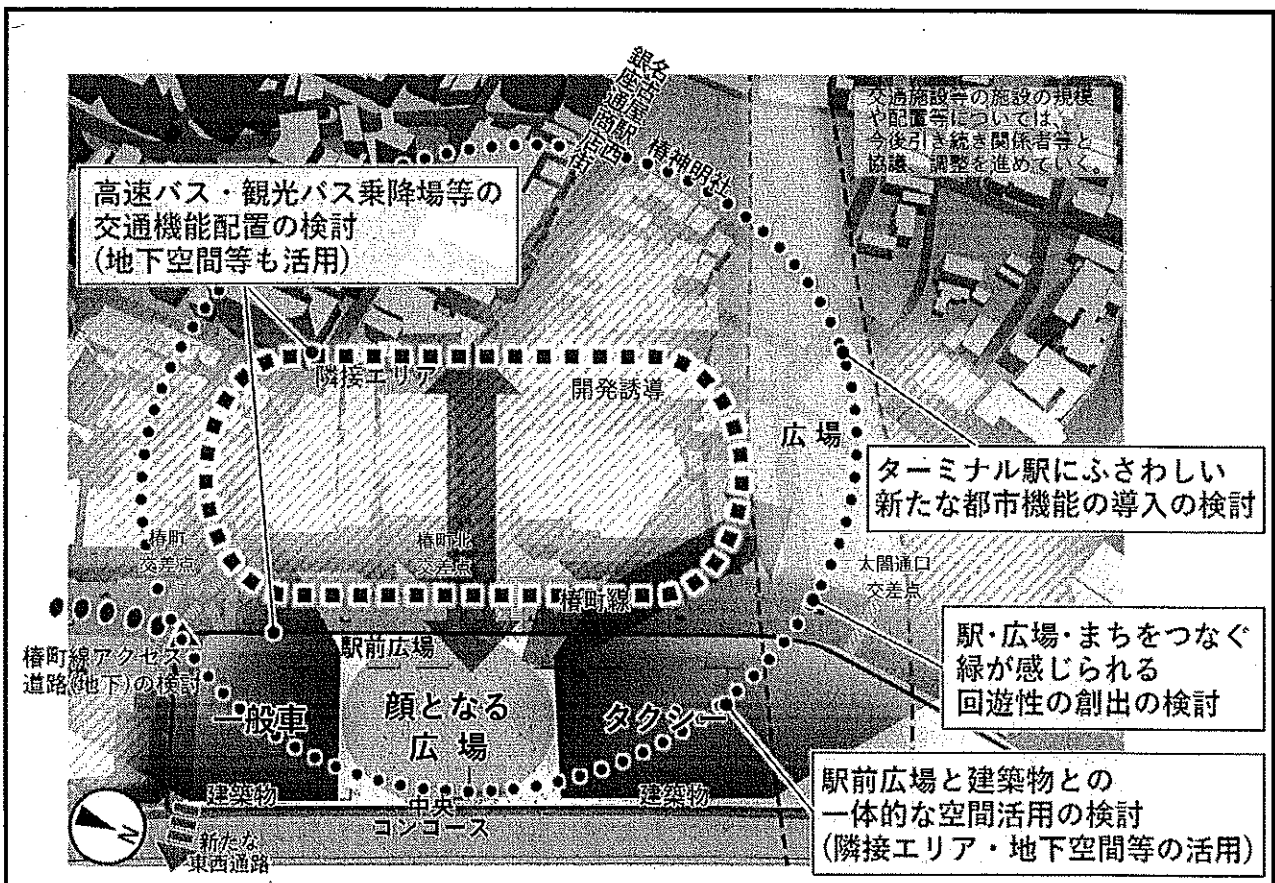
オ 西側エリアの目指す姿（案）

(7) 検討の方向性

交通機能の高度化と将来を見据えた西側エリアのまちづくりと連携した重層的な拠点の形成

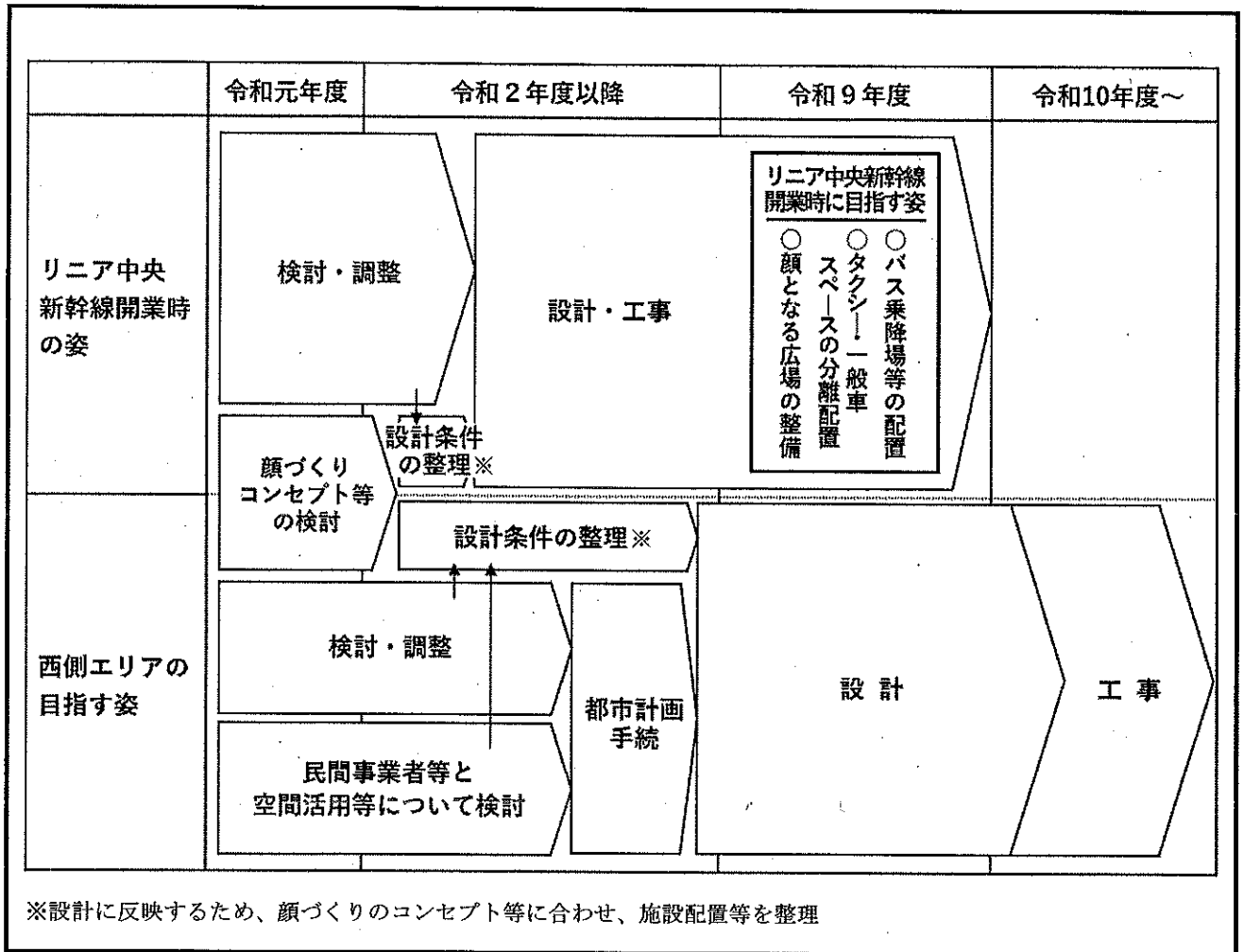
<p>交通機能の高度化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 待合環境にも優れた利用しやすい高速バス・観光バス乗降場について、隣接エリア・地下空間等の活用を含めて、配置を検討する。 ・ タクシー・一般車スペースについて、分離配置を検討する。
<p>将来を見据えた西側のまちづくりとの連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間事業者と連携しつつ、ターミナル駅にふさわしい新たな都市機能の導入について検討する。 ・ 民間事業者が参画しやすいスキームとともに、駅前広場と建築物との一体的な空間活用について検討を進める。 ・ スーパーターミナル駅にふさわしい「顔づくり」により、新たな魅力の創出を検討する。 ・ 駅前広場と、人々が集い・憩い・交流するリニア駅上部空間の広場と、まちをつなぐ緑が感じられる回遊性の創出を検討する。

(4) 検討イメージ



備考 「新たな路面公共交通システム (SRT)」と整合を図る。

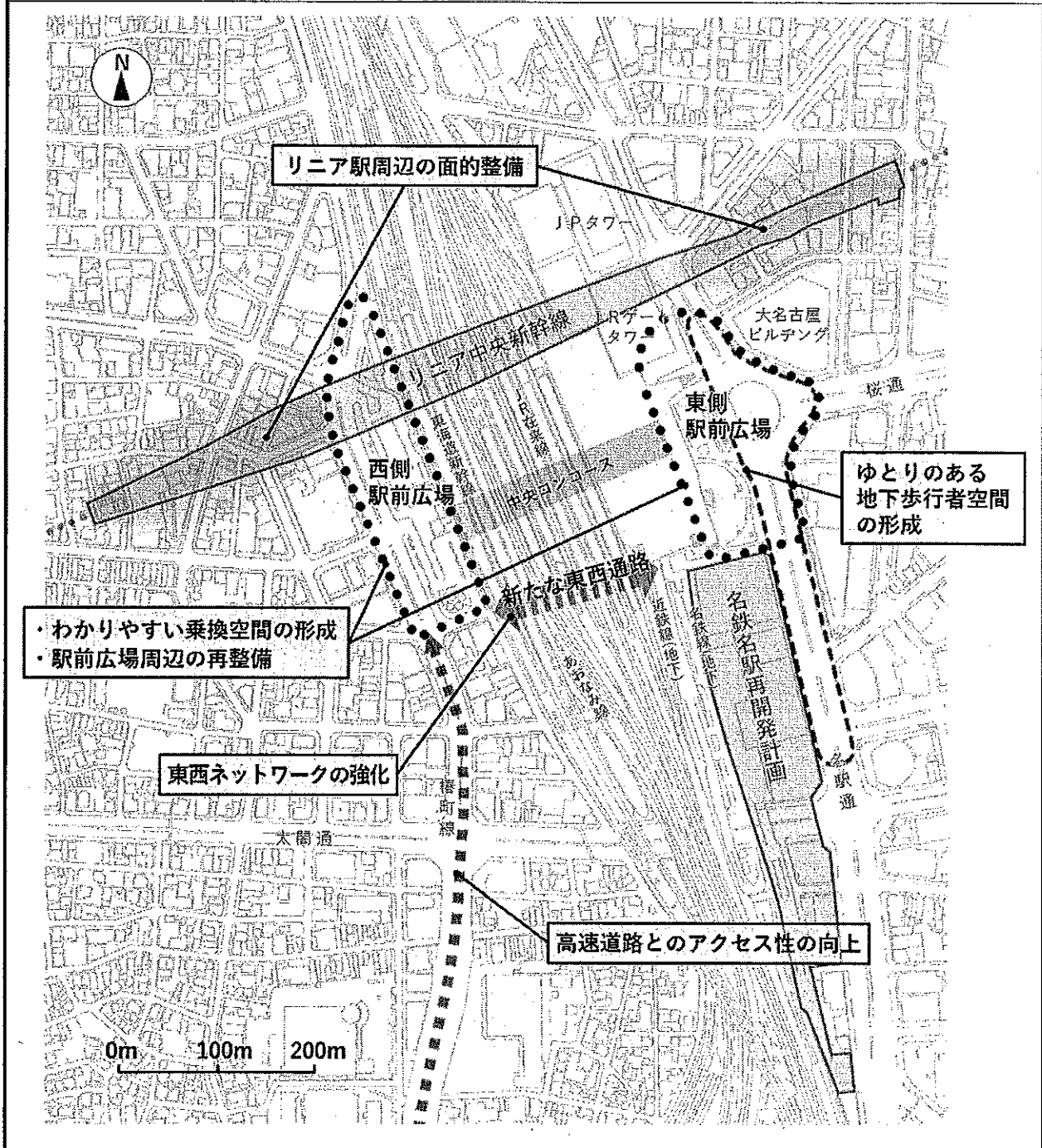
カ 今後の進め方 (案)



(5) 事業規模等

ア 名古屋駅周辺の開発

名古屋駅周辺において、リニア中央新幹線、名鉄名駅再開発計画といった民間開発に合わせて、名古屋市が主体となる公共事業を基本として駅前広場周辺の再整備等を進め、官民一体となって取り組む。



イ 駅前広場周辺の再整備等

(ア) 事業規模

他都市の事例等を踏まえると、規模感として総額2,000億円超を想定	
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅周辺の面的整備 ・わかりやすい乗換空間の形成 ・駅前広場周辺の再整備 ・ゆとりのある地下歩行者空間の形成 ・東西ネットワークの強化 ・高速道路とのアクセス性の向上

(イ) 財源確保

a 費用負担の考え方

国	<ul style="list-style-type: none"> ・名駅ターミナル機能強化を国家的プロジェクトとして位置付け強力に推進するように、官民提携して支援を求める。 ・既存の補助メニューを効果的に活用する。
県	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア中央新幹線開業のインパクトを広く圏域に波及させるとともに、圏域内外の人々の交流空間の安全性を高める名古屋駅のスーパーターミナル化への支援を求める。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・機能増加・増強分は事業者に負担を求める。

b リニア関連名古屋駅周辺地区まちづくり基金の活用

<ul style="list-style-type: none"> ・着実に事業を進めるために活用する財源として基金を設置しており、不動産売却収入などの基金への積み立てを行う。
--

ウ 東側駅前広場の再整備

<ul style="list-style-type: none"> ・現時点の検討としては約700億円を想定 ・構造的な検証や施工ステップの検討等を行い、今後事業費の精査が必要 	
整備内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルスクエア（乗換空間）の創出 ・顔となる広場の整備 ・地下広場等の整備 ・交差点形状の三差路化 ・タクシー・一般車スペースの分離配置

4 新たな路面公共交通システム（SRT）の考え方について

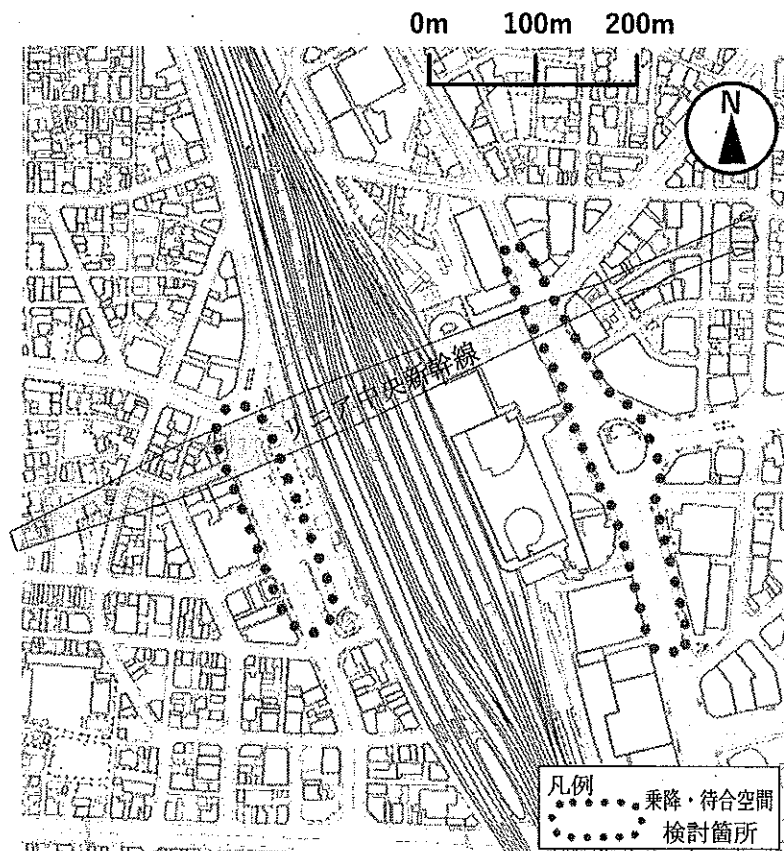
(1) 概要

- ・ 「新たな路面公共交通システムの実現をめざして（SRT構想）」（平成31年1月策定）において、魅力あるまちをシームレスにつなぎ、走る空間が豊かなまちの景観を生み出し、また、ストレスフリーで楽しい移動を提供する新たな都市のシステムを示した。
- ・ 名古屋駅や栄、名古屋城、大須など、都心部の魅力ある地域をつないで回遊性を高め、にぎわいを面的に拡大する新たな都市のインフラとして、リニア中央新幹線開業に向けて段階的な導入を検討している。

(注) SRTは、技術の先進性による快適な乗り心地やスムーズな乗降、洗練されたデザインなどのスマート（Smart）さを備え、路面（Roadway）を走行する新しい移動手段（Transit）の呼称である。

(2) 乗降・待合空間の検討

乗降・待合空間は、リニア中央新幹線開業時にSRTのシンボル性や回遊性向上効果が十分に発揮できるよう、駅周辺再整備等と整合を図りつつ、以下の場所で検討している。

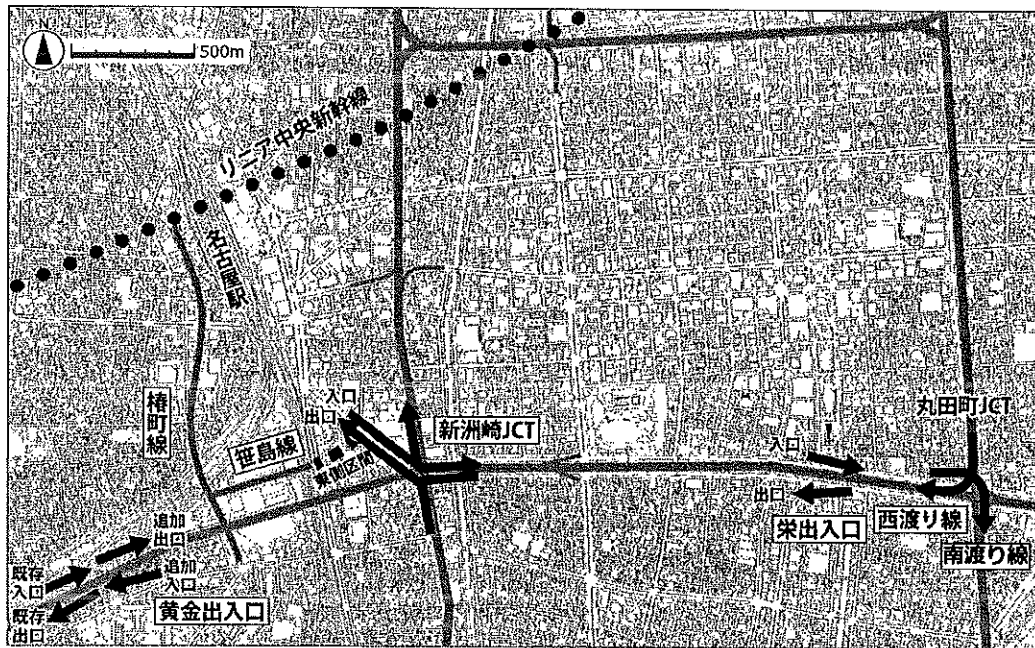


備考 位置や構造については、道路条件等の制約を踏まえるとともに、沿道地権者や関係機関との調整が必要である。

5 名古屋駅とのアクセス性の向上（高速道路）

(1) 高速道路出入口の追加・改良等によるアクセス性の向上の考え方

- ・ 黄金出入口フルIC化による駅西側のアクセス強化、新洲崎JCT出入口設置による駅東方面とのアクセス性の向上を図る。
- ・ 栄出入口・西渡り線の追加を行うことにより、都心環状線の渋滞緩和を行い、名古屋駅へのよりスムーズなアクセス性の向上を図る。
- ・ これらとともに南渡り線を一体で整備することにより、都心環状線の渋滞解消が見込まれるとともに、中部国際空港を始めとする南方面とのアクセス性の向上を図る。



(2) 取組の状況

- ・ 黄金出入口フルIC化及び、新洲崎JCT出入口については都市計画手続に着手
- ・ 栄出入口、西渡り線及び南渡り線については検討、関係者協議を進めており、協議完了後、都市計画手続等を進める

(3) 都市計画変更手続の経過及び今後の予定

経過	地元説明会	黄金 出入口 フル IC化	令和元年9月19日、22日 1会場で延べ2回開催
		参加者	合計 約170名
		新洲崎 JCT 出入口 設置	令和元年9月25日、26日 2会場で延べ2回開催
		参加者	合計 約170名
		主 意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出入口の必要性について ・ 環境への影響について ・ 名古屋駅周辺の自動車交通への影響について ・ 工事中の影響について
今後の 予 定	都市計画案の縦覧	令和元年12月11日～25日	
	名古屋市都市 計画審議会	令和2年2月頃	
	都市計画の告示	令和2年3月頃	

